

男鹿南中学校 2年1組 理科 学習指導略案

日 時 平成18年 1月 26日(2組 30日)

(1) ねらい 化学反応を化学反応式で表すことができる。

(2) 展 開

時 間	生徒の学習活動	教師の活動(主な発問、指示、支援、教材等)	
		主体的に学べる生徒	支援を必要とする生徒
20	1 既習内容の確認をする ... 元素記号 化学式		
5	2 学習課題をつかむ 化学反応を式で表そう。	学習課題を明確にする。	
10	3 硫化鉄の反応を例題に化学反応式の決まりを確認する	$\text{Fe} + \text{S} \rightarrow \text{FeS}$	
		単体や化合物の関係を確認させる。	実験結果を対話から引き出せるように援助する。
20	4 水の分解の化学反応式をつくる。 <u>どんどんコース(TV会議S 長浜先生)</u> 問題を提示し、できた人から答えあわせにモニターに行く。レベルをどんどん上げていき、身のまわりの現象まで発展させる。 <u>じっくりコース(西根)</u> モデルを使い、一つ一つと結びながら反応式を完成させる。	$2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$ どんどんコースでたくさん式を作るコースで学ぶように助言する。	じっくりコースでモデルを使いながら式をつくるコースで学ぶように助言する。
	教育センター側への要望・・・TV会議システム - 課題を出し、それをモニターで確認して化学反応式が完成しているかを判断してほしい。 - その中で必要に応じて対話から理解を深めさせてほしい。		
	5 内容の再確認をし、まとめを行う。		
	6 次時の予告を聞く。		

(3) 評価規準と評価方法

基礎規準	既習した3つの実験の化学反応を式で表すことができた。
深化規準	身のまわりの現象を化学反応式で表すことができた。
評価方法	モジュールブックの点検 授業中の机間指導 発表